

成果報告書 概要

2011 年度助成		(実践期間：2012 年 4 月 1 日～2013 年 12 月 31 日)	
タイトル	子どもたちの発達に応じた里山環境づくりを通して、人間力の育成を図る		
所属機関	栃木県日光市立落合中学校	役職 代表者 連絡先	学校長 高 橋 寿 0288-27-0024

対 象	学年と単元：	課 題
○ 小学生	理科・美術・総合的な学習の時間 学校行事 (ふれあい交流会・緑が丘祭)	教師の指導力向上を目指す教員研修、実験方法指導、教材開発
○ 中学生		子ども達の科学的思考能力の向上を目指す授業づくり、教材開発
教 員		ものづくり(ロボット製作等)による、科学分野で活躍する人材の育成
その他		○ その他



実践の目的：	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒組織を生かした生徒活動の実践 ②体験活動を通して豊かな心の育成 ③里山活動から持続可能な社会を目指す力の育成 ④地域と連携し、多くの人間関係から社会性を育成
実践の内容：	<ul style="list-style-type: none"> ①森林環境整備活動(遊歩道づくり・野外音楽堂づくり) ②里山活動(樹木の伐採、苗木の植樹、伐採した樹木での薪割りと炭づくり、落ち葉さらい、堆肥づくり、野菜づくり、ピザ窯を使ってのピザづくり等) ③持続可能な環境教育 ④地域・家庭・公民館との連携 ⑤広報活動
実践の成果：	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒活動が、多種多様化し、充実した教育活動が展開された。 ②様々な体験活動を通して、豊かな心の育成につながった。 ③持続可能な社会づくりの啓発になった。 ④地域の人々から様々な協力を得る中で、地域に支えられることを実感した。
成果として特に強調できる点：	<ul style="list-style-type: none"> ①遊歩道・野外音楽堂づくり ②ピザづくり ③落合中心ふれあい交流会 ④ベンチづくり ⑤植林活動

成果報告書

2010 年度助成	所属機関	栃木県日光市立落合中学校
タイトル	子どもたちの発達に応じた里山環境づくりを通して、人間力の育成を図る	

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

- ①環境教育の重要性が叫ばれている中、その一環として持続可能な社会の実現に向けての教育活動と、学校、家庭、地域の連携活動の拠点として、落合中が誇れる緑が丘（学校林）を整備及び活用していくこと。
- ②日本人が弥生時代から続けてきた里山づくりを振り返りつつ、里山の重要性と持続可能な社会に貢献できる生徒の育成
- ③公民館を巻き込んだ学校支援地域本部事業を活用した学校、地域、家庭の連携を通して多くの人との関わりによるコミュニケーション能力の育成と地域の人々・地域の自然を愛する心を育てる教育活動の展開

2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

- ①機器・材料の購入
薪割り機、捕虫網、のこぎり、台車、ヘッジトリマー
野外音楽堂資材、防草シート等
- ②協力機関等との打合せ
日光市地域教育協議会、学校支援ボランティア、
ふれあい交流会実行委員会、おやじ倶楽部、

3. 実践の内容

1 緑が丘活動…緑が丘活動とは、学校内森林(1.5h)の森林環境整備と、里山活動を通して持続可能な社会づくりのための環境教育を行うことである。

(1) 森林環境整備活動

①遊歩道づくり…森林の中に幅2mの木質チップを敷き詰めた長さ210mの遊歩道を完成させた。生徒の活動と共に、地域企業からは資材の提供や技術指導を、PTAからもたくさんの協力があつた。その入り口には、フェッソカビツグでつくったフクロウの彫刻と、生徒の文字でフェッソカビツグされた緑が丘の看板を設置し、遊歩道と一体化された環境ができあがった。

②野外音楽堂づくり…森林の中で吹奏楽の演奏や合唱ができるようにコナトステージをつくった。Rのついたステージをつくらうとしたため、その作業は困難であつた。しかし、地域の建築業や土木業、大工さんたちの協力と支援により、出発時以上のできばえとなつた。平成24年度の中学3年生の卒業製作として、生徒の活躍も光つた。地域のジャズバンドや吹奏楽部の演奏や合唱などに使われている。

③ベンチづくり…学校敷地や緑が丘の中で、生徒・保護者・地域住民が日常利用でき、憩いの場となるようベンチを設置した。平成25年度の3年生の卒業作品である。

(2) 里山活動…樹木の伐採、苗木の植樹、伐採した樹木での薪割りと炭づくり、落ち葉さらい、堆肥づくり、ピザや焼き芋に使う野菜づくり、落ち葉と枝木を使つての焼き芋、ピザ窯を使つてのピザづくりを行つてきた。この活動は4年目となる。

(3) 持続可能な環境教育…すべての活動において、里山がもつ6つの特長を生かし、自然エネルギーの活用と持続可能性を考えさせている。

2 地域・家庭・公民館との連携…学校支援地域本部事業による地域VTの協力、公民館を通じた地域諸団体からの協力、昨年度発足した「落合中おやじ倶楽部」等OBを含めたPTAの協力など、連携を強化させてきた。その中でも、地域諸団体すべてが事業主体となつた「緑が丘ふれあい交流会」は平成25年度には、第3回目を迎え、初めての土曜開催もあつて、800人を超す参加者で賑わい、地域と中学生の交流が図られた。

3 広報活動について…広島県呉市での教育会発表や各地の研修会等での事例発表、県環境森林部でのパンフレットへの掲載、地元下野新聞の取材など、多方面で紹介される機会を得ている。地域に対してもホームページや学校便り、学年・学級便りなどを通して活動を紹介し、地域からの関心はしだいに高まっている。

4. 実践の成果と成果の測定方法

3年前、緑が丘は、数十年前に整備されたままの荒れ放題の林だった。そこで、生徒と保護者地域の方々、公民館が一体となって、様々な活動を行ってきた。そこで、新たな教育活動が展開され、地域における新たな地域づくりが展開された。このことは、この落合中学校そして落合地区、落合公民館にとって、非常に重要な指標となった。

【実践の成果】

1 森林環境整備活動

荒れていた学校林が、生徒、保護者、さまざまな人々の繋がり結びつきにより、再生され、まさに蘇った。

生徒たちはもちろんであるが、地域の方も訪れ、自慢の「緑が丘」が復活し、そこで様々な活動が展開されることとなった。

2 里山活動

緑が丘のソフト的な事業であり、地域の方々と生徒が直接関わり、緑が丘を育て、発展させることとなった。生徒たちはその中で、育ってきた地域や学校、環境を見つめ、大きく成長した。

3 持続可能な環境教育

ゼロエミッションを掲げ、循環型社会の形成、環境の保持・保全、ボランティアの推進など、生徒たちと地域の人々と一緒になって、創り上げてきた。生徒には、ここでの活動が、今後の生活における一つの方向性として、残っていくことであろう。

4 地域・家庭・公民館との連携

今回の活動のもう一つの柱として、「連携」が挙げられる。この活動により、いったいどれだけの人々が動いてきたのか。保護者はもちろんのこと、たくさんの地域の人々が関わり、公民館も一体となって、新たなムーブメントを起こしてきた。

地域づくりの柱にもなり、地域の活性化としても一役を担うこととなった。

この連携が、今後の落合中の基板となり、様々な活動を進める上で、大きな支援になることが予想される。

5 広報活動について

前述のさまざまな広報活動を実施する事により、本活動は、県内外において、注目されるものとなった。

【成果の測定方法】

1 森林整備活動

これまでの活動を写真に撮り、電子データで保存してある。過去の落合中のさまざまな歴史・写真と比較することにより、今回の活動の充足の度合いが判断できる。

2 里山活動

生徒の活動の様子、QU検査、全国学力・学習状況調査より、生徒がいかに、変容してきたのかが、測定できる。

3 持続可能な環境教育

生徒が、今後、どのような学校生活を過ごすのか、あるいは、卒業していく生徒たちが、どのような考えで、行動していくのか、アンケート等により追跡調査をすることにより、把握していきたい。

4 地域・家庭・公民館との連携

年度当初・年度末に、それぞれとの連携がどうであったのか、公民館をはじめ、様々な会議等において、議題としてとりあげ、評価をしていく。

5 広報活動

広報活動は、ホームページの更新回数を含め、各所での発表など、その量と回数で評価することとする。

5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

1 成果活用の視点

十分な成果を踏まえ、今後、この経過をいかに継続し、新たな職員・新たな生徒にいかに渡していくかが、とても重要なこととなる。

2 残された課題への対応

今回の活動により、緑が丘活動は大幅な推進をみた。今後であるが、緑が丘活動をいかに持続し、新たな方向性をどのように生んでいくのかが、課題となるであろう。

3 実践への発展性

今回の事例が、他の学校・他地域にいかに広報され、広められるのか、それをこの事業の価値のひとつと考えていきたい。

6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載されたり放送された場合は、ご記載ください

広島県呉市での教育会発表や各地の研修会等での事例発表、県環境森林部でのパンフレットへの掲載、地元下野新聞の取材、全国公民館活動事例集、全国テレビ放映など、多方面で紹介されている。

地域においても、ホームページや学校便り、学年・学級便りなどを通して活動を紹介し、地域からの関心はしだいに高まっている。

7. 所感

今回、日産財団様より、多額の支援をいただき、本校また本地域を代表して、御礼申し上げます。今回の支援があり、新しい学校づくり、新しい地域づくりの大きな契機になったと確信しております。

生徒たちは、これまでになかった新しい教育活動・環境の中で、生き生きと生活しております。落合中の歴史を取り戻し、そして未来に向かっていく一つの方向性を見いだせたようです。

地域では、落合での新たな地域づくりが派生し、新たな団体等が生まれ、着々と活動しております。これも考えられなかったことです。

私たちは、限られた場所・予算・施設に生活していますが、視点を変え、行動を変えただけで、世界は一変するのです。今回は、私どもの教育の観念・経営方針も見直していただけるほどの、すばらしい機会となりました。ありがとうございました。